

鳥の海でのシギ・チドリ類のレッグフラッグを用いた標識調査について

宮城県仙台市 細谷 淳

シギ・チドリ類の移動経路を調べるため、2005年より宮城県南部に位置する亶理町の鳥の海で標識調査を開始し、2010年秋より数字とアルファベットの組み合わせを刻印したプラスチック製のレッグフラッグの装着を開始した。2005年～2017年までに43種類6054羽のシギ・チドリ類を標識放鳥した。

そのうち2301羽に刻印付きレッグフラッグを、151羽に刻印の無いフラッグを装着した。

主な種類はトウネン1728羽(28.54%)、キアシシギ1154羽(19.06%)、キョウジョシギ807羽(13.33%)、ハマシギ462羽(7.63%)、イソシギ455羽(7.52%)、ソリハシシギ364羽(6.01%)であった。

特筆すべき種類として、アメリカウズラシギ(日本標識4例目)、コモンシギ(日本初標識)、シベリアオオハシシギ(日本初標識)などがあり、ヨーロッパトウネン(6羽)やメリケンキアシシギ(8羽)など比較的標識記録が少ない種類も定期的に放鳥された。

リカバリーは4種11例で、海外2例(ロシアカムチャツカ2)と国内9例(北海道6、東北2、関東1)であった。他の調査地で標識調査中に鳥の海放鳥の鳥がリカバリーされた例は3種11例で、海外2例(オーストラリアビクトリア州1、クィーンズランド洲1)、国内9(北海道5、東北4)例であった。

一般の観察者からの報告で、金属リングの撮影による再確認は6種12例で海外2(韓国)、国内10(東北6、関東2、中部1、近畿1)であった。

一般の観察者からのレッグフラッグによる再確認は24種315例で、そのうち海外での観察が97例であった。内訳はオーストラリア64例(クィーンズランド洲45、西オーストラリア州19)、ニュージーランド1、東アジア21例(韓国14、中国2、台湾4、香港1)、太平洋4例(パラオ共和国ペリリュー3、北マリアナ諸島サイパン1)、東南アジア2例(タイ1、フィリピン1)、アラスカ2例、ロシア3であった。国内は218例で、北海道13、東北47、関東73、中部25、近畿27、中国11、四国7、九州15であった。

鳥の海で標識され、他の地域で再確認された例は合計271個体で、そのうち標識調査で確認されたものは11個体で4.06%であったのに対し一般の観察者からの再確認は260例で95.94%であった。シギ・チドリ類の標識調査は調査地が少ないため、一般の観察者からの報告が非常に重要であることがわかった。

また刻印フラッグを付けずに放鳥しその後金属リングが撮影された例は3784羽中23羽(0.6%)と低かったのに対し、刻印フラッグを付けて放鳥し撮影された例は2279羽中157羽(6.89%)と高く、レッグフラッグを用いた調査の有効性が示された。

本稿は鳥類標識調査データ(山階保全第30-114号)に基づいて作成された。